

施策・基本事業評価表

作成日 平成 23 年 4 月 18 日

基本目標No.	3	基本目標名	健やかで笑顔あふれるまち
施策No.	29	施策名	地域で支えあう福祉社会の推進
主管課名	社会福祉課	主管課長名	吉川 高広
関係課名			

施策が目指すすがた	<ul style="list-style-type: none"> ・世代を超えて相互に理解と協力をもって連携し、支えあって生活しています。 ・市民が地域活動推進のため、お互い協力して福祉活動に参加しています。
-----------	--

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担や地域等への期待など	市・事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・近所同士が助けあいをして、見守り活動に取り組めます。 ・ボランティア活動に取り組めます。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で行う福祉活動を支援します。 ・地域での見守り体制の充実を図ります。
	その他	

施策の成果達成にあたっての現状と課題	<p>核家族化や少子化の進展にともない、地域住民相互の社会的なつながりも希薄化しているため、容易に地域福祉活動やボランティア活動などに参画できるような環境づくりを進めていく必要があります。また、個々の福祉サービスへのニーズが多様化しているため相談・支援体制をより充実させる必要があります。さらに、一人暮らし高齢者が増加することにもない、プライバシーに配慮しながら、高齢者を見守り支えていくコミュニティづくりが求められています。</p>
--------------------	---

施策No.	29	施策名	地域で支えあう福祉社会の推進
-------	----	-----	----------------

22年度の 評価結果 (基本事業 の成果を考 慮し記載)	1. 施策(基本事業)の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)
	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述)
	<ul style="list-style-type: none"> ・H22年12月に民生児童委員の改選があったが、定数(120名)は確保できました。 ・ボランティア登録者数は、増加する傾向にあります。 ・認知症サポーター数は、年々増加しています。
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述)
	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター数は、県内平均より少ないものの、H22・23年度で実施するモデル事業の効果で増加傾向にあります。
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述)
	<ul style="list-style-type: none"> ・市では、多様化する福祉関係問題について、関係機関との連携を強化し、その解決に全力をあげてきました。しかし、問題の解決にあたって、地域と地域の福祉関係者にかかりの部分を依存しています。一人暮らし高齢者の増加も相まって、民生児童委員等の地域福祉関係者の負担感は相当重くなってきています。
	2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策及び基本事業の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取り組み内容を中心に記述)
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、障害者、高齢者、生活困難者に対する社会福祉相談窓口の機能強化を図りました。 ・ケアネット事業の全地区導入を行いました。 ・関係機関(市社協・地区社協・民生委員・福祉推進委員・町内会等)との連携強化に努めました。
	3. 施策の課題認識及び23年度の取り組み状況(予定) (22年度末で残った課題、既に23年度に取り組んでいること、又は取り組むこととしている予定を記述)
<p>少子高齢化の進展により一人暮らし高齢者が増加するとともに、個々の福祉サービスへのニーズが多様化しつつありますが、安易に公的サービスの拡大を図ることは困難な状況にあります。</p> <p>これからは、福祉サービスも住民との協働を基本に、プライバシーに配慮しながら相談・支援体制をより充実させ、高齢者を見守り支えていくコミュニティづくりが求められています。</p> <p>このためには、関係機関(市社協・地区社協・民生委員・福祉推進委員・町内会等)との一層の連携強化に努めるとともに、地域コミュニティづくりの支援策と民生委員業務の負担軽減策を検討する必要があります。</p> <p>以上のような状況を踏まえ、これらのことに対応できる地域福祉計画を策定します。</p>	

部会評価 (協議結果、 今後の方針 及び課題等 について記 載)	※今後の施策の方向性※	維持
	<p>だれもが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる「健やかで笑顔あふれるまち」の実現のためには、市民、行政、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、社会福祉事業者、ボランティアやNPOなどの協働と連携による地域福祉のさらなる推進が必要ですが、現行の施策のスクラップ&ビルドで対応していくことを基本とします。</p>	

行政経営戦略会議指示事項	部会評価のとおり推進すること。
--------------	-----------------

施策の トータル コスト	区 分	単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績
	A. 本施策を構成する事務事業の数	本数						
B. 事業費(事務事業の事業費合計)	千円							
C. 事務事業に要する年間総時間	時間							
D. 人件費(C×1時間あたりの平均人件費)	千円	0	0					
E. トータルコスト(B+D)	千円	0	0					
効率性 指 標	対象(受益者)1単位あたり、若しくは市民1人あたりの施策の	円	0	0				
	F. 事業費(定義式: B/人口)							
	同 上	円	0	0				
	G. 人件費(定義式: D/人口)							
同 上	円	0	0					
H. トータルコスト(定義式: E/人口)			0	0				

施策No.	29	施策名	地域で支えあう福祉社会の推進
-------	----	-----	----------------